

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター

平成30年11月発行 No.54号



アサヒカズラ

国際協力機構（JICA）から研修生を受け入れ

国際協力機構（JICA）北海道国際センター（帯広）から「地域住民の参加による持続的な森林管理コース」の研修生を10月30日～31日の2日間受け入れました。

1日目は、午後から石垣地方合同庁舎会議室において、12カ国の研修生12名に対し「西表島の森林・林業等」について講話を行いました。

質疑応答では、当該センターのモニタリング調査及びマングローブ林等について、予定時間を超過するなど、様々な意見や質疑がありました。

2日目は、石垣島から西表島に渡り、外来種ギンネムの侵入・繁茂が激しい南風見田海岸において、当センターで取り組んでいる「海岸林の再生について」の説明を行い、在来種である防風・防潮効果のあるテリハボク、フクギを植樹している試験地を視察しました。

その後、竹富町交流センターに移動し昼食をとり、大原港から仲間川の遊覧船に乗り、日本最大のマングローブ林やサキシマスオウノキ（森の巨人たち百選）を視察しました。

途中、中流船着き場で舟を下り大富展望所へ移動しました。

雨模様で霧が立ちこめる中、眺望できるのか心配しましたが、日頃の行いが良かったのか、雄大なマングローブ群落が眼下に広がる光景を觀賞することができました。

その後、大富歩道を約1時間歩きながら、熱帯林の様々な動植物を探索しつつ、研修生から質問等を受けながらの楽しいウォーキングとなりました。

今回は、あいにくの雨の中での研修となりましたが、和気藹々の中、当センターの日程も終わりました。

帰国後の研修生の活動に寄与することを期待します。



サキシマスオウノキを眺める研修生

ヒナイ川の利用状況調査報告

11月12日（月）ヒナイ川の利用状況調査を実施しました。当日は、晴天で少し蒸し暑さも感じられる状況でしたが、川の水が少し冷たく感じられ、滝壺で泳ぐ利用者は少なかったようです。

昨年この時期は、雨の日も多かったのですが、この一週間の天候も良好で、多くの団体ツアー客や修学旅行等が西表島を訪れ、多くの観光客が玄関口の大原港に集まっています。

調査の結果、カヌーツアー18組、76名（ガイド含む）で、利用者の多くは、家族単位のグループでそのほとんどが半日コース（滝壺まで）で、西表島で一番有名なピナイサーラの滝を体験しました。



カヌーを楽しむ利用者

船浦中学校・大原中学校の「西表島横断」を支援

11月17日(土)に西表島の大原中学校及び船浦中学校が西表島の横断を行いました。

船浦中学校については、当初11月3日(日)に計画されていましたが、前日からの雨で延期され、同日に両中学校、時間をずらしての実施となりました。

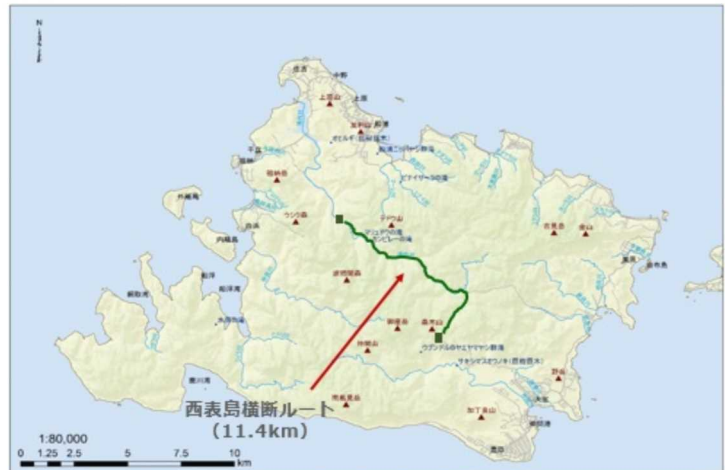
この西表島横断は、自然の素晴らしさ、厳しさ、環境問題等について考える機会とし、またお互いが助け合い、励まし合う心を育てること、同時に忍耐力を養うことを目的に、船浦中学校(生徒15名及び保護者、職員等35名の総勢50名)大原中学校(生徒22名及び保護者、職員等35名の総勢57名)が挑戦しました。

当日は、曇り空で暑すぎず寒すぎず絶好の横断日和となりました。6時30分に浦内川河口に集合し各校それぞれに出発式を行った後、遊覧船で出発し軍艦岩に到着。それぞれ各班に分かれて出発、マリユウドウの滝、カンピレーの滝を眺めながら順調に進み、イタチキ川合流地点において、各班でそれぞれに楽しい昼食(おにぎり)を取りました。

昼食後、体力に自信がない者はここで引き返すこととなりますが、腹も満たされたせいか、全員が終点大富口を目指し歩き始めました。

途中、急な傾斜や岩場などの場が悪いところでは、お互いが助け合い、皆で声を掛け合うなど一生懸命でした。

生徒達は、終点の大富口まで約11.4kmを約9時間半かけ、滑ったり転んだりしながら歩き、いい経験となりました。到着後、無事踏破の成功に氣勢を発して、出迎え隊の祝福を受けました。



カンピレーでの様子



もうつかれた、休憩しよ〜と！

石西礁湖自然再生協議会へ出席

平成30年10月27日(土)に沖縄県八重山合同庁舎大会議室において「第24回石西礁湖自然再生協議会」が開催されました。

同協議会は自然再生推進法に基づき、石西礁湖(石西礁湖に影響を及ぼす陸域と海域を含む)の自然再生を推進するため、必要な事項について協議することを目的としています。

今回、健全なサンゴの生態系を保全するため、今後5年間の重点的な取り組みの方向性について、説明がなされ確認しました。

「サンゴ礁の今を調べる=知る」「豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す=守る」「サンゴ礁の恵みや大切さを伝える=伝える」の3つの分野に15方針を掲げ取り組みを確認しました。

取り組みの方向性としては、赤土流出防止対策だけでなく、生活排水や畜産業による排水、農業による農薬、化学肥料など陸域からの負荷の実態や影響を洗い出し、また、大幅に増加している観光客にも対応するため、サンゴ礁への負荷の実態把握や負荷を減らす観光を進めるなど、今後、部会等で具体的な内容をつめて行くこととなります。

平成30年度 森林・林業の技術交流発表大会

10月29・30日の両日に渡り、九州林政連絡協議会が主催する平成30年度森林・林業の技術交流発表大会が熊本市において開催されました。

九州地域各県の森林・林業関係者や森林・林業を学ぶ高校生、局・署の職員等、両日で延べ約500人の参加がありました。

「森林技術部門」「森林保全、森林ふれあい部門」の2部門において、二つの会場に分かれ30課題の発表と高校生による6課題の発表が行われました。

当センターの山部生態系管理指導官が「森林保全、森林ふれあい部門」において「西表島のマングローブ林の現状等について」と題し、平成17年度から実施している6河川の流域でのマングローブ林のモニタリング調査の報告と過去の大規模台風による仲間川のマングローブ林の倒伏被害について発表をしました。

継続しているマングローブモニタリング調査は、今後も必要と考えており、特に仲間川の倒木被害モニタリング調査では、土壌の流出やマングローブの倒伏による被害拡大が確認されています。

この被害拡大に対応するため、有識者（琉球大学熱帯生物圏研究センター、林木育種センター西表熱帯林育種技術園）の協力、助言等を得ながら進めて参りますが、倒木被害地の植生の再生を確実なものとするため、マングローブ苗木の育苗試験及び早急なマングローブの植栽試験地の設定が重要であると考えます。

今後も関係機関等からの助言を得ながらマングローブ林の再生対策に取り組んで行くこととし、機会あるごとに様々な活動を広く発信していきます。



発表する山部生態系管理指導官

「山の体験学習」を支援 ～ 白浜小学校 ～

11月17日（土）竹富町立白浜小学校が毎年実施している「山の体験学習」を沖縄森林管理署とともに支援しました。

当日は、児童15名、教職員6名、保護者等25名（未就学児4名含む）の総勢46名が参加し、9時30分に出発地点である船浦の海中道路から子供達は元気よく出発しました。

今年の「山の体験学習」は、ピナイサーラの滝周辺を散策するという企画で、コースは船浦湾 → 滝つぼ → 滝上 → マーレ川のカヌー利用者駐車場まで約6時間の長丁場です。はじめは潮が引いた船浦湾の干潟に生息する魚介類を発見するた子供達は歓声を上げて喜んでいましたが、その後マングローブの林から森林の中に入っていくとだんだんと言葉が少なくなってきました。それでも滝つぼに到着すると、この時期西表島でも気温約20度と少し肌寒い中、子供達は「泳ぎたい」と言って滝の水に浸かって30分ほど遊んでいました。その後、滝上に向かう急な登り道を未就学の児童も元気に登り切り、滝の上で昼食をとった後記念撮影を行い、午後3時30分には全員無事に駐車場にたどり着くことが出来ました。

山の中ではオキナワウラジロガシの大きなドングリや椎の実を見つけ、子供達が「椎の実を食べられるんだよ」と話あっていて日頃から山と慣れ親しんでいることが分かりました。今後も、島の子供達が西表島の豊かな自然を体験し楽しい思い出となるように支援を続けていきたいと思います。



ピナイサーラの滝上での子供達



☺ 干潟の魚介類を探せ ☺

西表島の樹木

マルバルリミノキ

アカネ科

分 布	屋久島以南、沖縄、中国南部等
葉 の 形	楕円形、長楕円形
葉 の 縁	全 縁
葉 の 先	鋭 尖 形
葉の付方	対 生
葉の種類	単 葉
花・萼色	白 色

山地の林内に生育し、高さ 1m ほどになる常緑の低木です。
 茎には黄褐色の剛毛が密生しています。葉は対生し革質で全縁、長楕円形で長さ 2.5
 9 cm、幅 2 ~ 4 cmです。葉先は鋭尖形、基部は円形です。
 表面は無毛、裏面は黄褐色の剛毛が密生しています。花は腋生し、白色で 5 つに裂
 け、長さ 7-8 mmです。実は液果の球形で径約 7 mm、瑠璃色に熟します。



アサヒカズラ 「タデ科」 Antigonon leptopus

花言葉：愛の鎖

桃色のがく片が鮮やかなピンク色の花を多数咲かせます。
 葉は心形で、葉の緑も鮮やかで、花の色がより引き立ちます。
 沖縄では比較的によく見られる植物で、花序の先端は巻きヒゲ
 になっており、それが他物に巻きついて、より高い位置によじ
 登ります。
 メキシコ原産で、日本には大正時代に渡来した常緑のつる性
 植物で、夏～秋に花を咲かせます。



林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内
 TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>

